

教員セミナー 模擬調停の体験 中学・高校チームのご報告

鍋嶋 正明（青森県）

2018年5月19日（土）に、札幌市の札幌弁護士会館において、法教育教員セミナーが開催されました。

私は、小学校チームと中学・高校チームの2つに分かれたグループワークのうち、中学・高校チームの進行役（司会）を担当しました。

中学・高校チームには、中学校、高校、大学の教員の先生方など、合計9名の方々が参加されました。

私の他に日弁連市民のための法教育委員会の弁護士2名が進行を担当し、4名の札幌弁護士会の弁護士にも、進行をご協力いただきました。

当日、扱った教材は、民事模擬調停についてのもので、日弁連において、出版に向けて準備しているものです。

教材の概要は、「体育館で、アキラ君とテツオ君が1個のバスケットボールを取り合ってもみ合いになった。そこに、同級生のタロウ君がやって来て調停をする。」というものです。

参加された教員の先生方には、このグループワークでは、生徒になりきってもらい、私が先生の役を担当し、実際の授業の形式で体験していただきました。

前半部分として、約40分かけて、教材に従って、生徒役の教員の先生方に、ワークシートを埋めてもらい、その後、質問をする方式で、双方向で授業を進めました。

内容は、模擬調停をするに当たって、前提となる話し合いでの問題の解決の在り方や調停での話し合いの進め方についてのものでした。

後半部分として、約70分かけて、実際に模擬調停を体験していただきました。

模擬調停は、参加者9名が、調停人（タロウ君）役3名、各当事者（テツオ君とアキラ君）役各3名に分かれて、それぞれに私を含む日弁連の法教育委員会の弁護士各1名と札幌弁護士会の弁護士各1名が付いて、進行を補助しながら行いました。

模擬調停は、まずは、調停人（タロウ君）役が、各当事者役（テツオ君とアキラ君）役から、個別に話を聴き、それをもう一方の当事者役に伝えるところから始まりました。

調停人（タロウ君）役をご担当された教員の先生方は、一方の当事者役から事実を聴き取り、もう一方の当事者役に伝えることを体験されましたが、熱心に聴き取りと進行をされており、裁判所における実際の調停のようでした。

その後、調停人（タロウ君）役、各当事者（テツオ君とアキラ君）役、それぞれが解決案を考えました。

そして、各当事者（テツオ君とアキラ君）役から、自らに有利な順番で交互に解決案を2つずつ出してもらいました。

各当事者（テツオ君とアキラ君）役からは、フリースロー対決で使う人を決める（テツオ君役）、時間で区切るが、先輩2人と3人なので3倍の時間をもらう（アキラ君役）などのユニークな案が出て、盛り上がりました。

結局、各当事者（テツオ君とアキラ君）役の案では、合意できなかったもので、調停人（テツオ君）役から、みんなで遊ぶという案を出したところ、その案で各当事者役として合意するというので、合意に至りました。

参加された教員の先生方は、非常にノリノリで楽しんでおられ、聴き取りや調停案の検討に積極的に参加されていたため、それぞれの時間を延ばすことになりました。

私としては、時間内に終わるのか、ヒヤヒヤしましたが、何とか10分程度の延長で終わり、ホッとしました。

参加された教員の先生方に模擬調停の魅力が十分に伝わったと思いますし、最後に先生方から貴重なご意見もいただき、日弁連の法教育委員会の委員としても大変参考になったと思います。

以 上